

29 適正飲酒の推進

—— 適正飲酒で心身ともに健康な生活を ——

「酒は百薬の長」という言葉があるように、適度な飲酒は、疲労を回復させる効果、熟睡させる効果、あるいはストレスを解消し、精神を安定させる効果等人間の心身に優れた効果を発揮するとともに、社会的には、相互の理解を深め、誤解を解き、情報交換、意思の疎通を図りながら、親密な関係を増進するという人間関係の円滑剤としての効果があるといわれています。

適度な飲酒（適正飲酒）の量は、個人によって差異はあるでしょうが、一般的には、1日に日本酒で1～2合、ビール大瓶で1～2本、ウイスキーダブルで1～2杯という程度ではないかといわれています（この場合でも、週2回程度は酒を飲まないことが望ましいとされています。）。

いずれにしても、適正飲酒に努め、健康を損なわないよう、楽しく、上手に飲んで、心身ともに健康な生活を送りましょう。

なお、昭和55年にアルコール飲料に関する知識及び適正な飲酒習慣に関する思想の普及、アルコール飲料と健康等に関する調査研究等を行うことにより、国民の健康の保持等を図ることを目的として、（社）アルコール健康医学協会（東京都文京区 TEL03-5802-8761）が設立されました。

適正飲酒10か条

1. 笑いながら共に、楽しく飲もう
2. 自分のペースでゆっくりと
3. 食べながら飲む習慣を
4. 自分の適量にとどめよう
5. 週に2日は休肝日を
6. 人に酒の無理強いをしない
7. くすりと一緒には飲まない
8. 強いアルコール飲料は薄めて
9. 遅くても夜12時で切り上げよう
10. 肝臓などの定期検査を

（社）アルコール健康医学協会作成

飲むときは
じっくり吟味、肴も飲み方も。

『適正飲酒の10か条』

週に二日は
休肝日を

自分の適量に
とどめよう

食べながら
飲む習慣を

自分のペースで
ゆっくりと

笑いながら共に、
楽しく飲もう

肝臓などの
定期検査を

遅くても夜12時で
切り上げよう

強いアルコール
飲料は薄めて

くすりと一緒には
飲まない

人に酒の無理
強いをしない

国税庁 厚生労働省 社団法人アルコール健康医学協会

お酒は20歳になってから

このポスターは再生紙を使用しています。